

日本フランス語フランス文学会に参加して

西野清治

先日、日本フランス語フランス文学会の1998年度の秋季大会が、大阪大学で開かれた。市の中心部から電車とモノレールで約30分のところにあるキャンパスは広く、内部にある溜め池では近所の小学生たちが釣りをしていた。私は2日間で研究発表2件と講演2つを聞いた。以下に聞いた順に内容を簡単に述べてみたい。

① Balzac mode d'emploi: quels textes pour quels lecteurs?

--- Nicole Mozet (パリ第7大学)

これは、バルザックという作家の原稿をもとに本を作り上げる時の問題点についての話であると理解した。語学研究の分野の私には専門外のことであり、残念ながらあまりよくは理解できなかった。ただ、各作品の中に出てくる人名や地名などの固有名詞が重要性を持つらしい。

② 名詞句内からの前置詞句の前置について

--- 平塚 徹 (京都産業大学)

1) Il a dessiné de Jean un portrait caricatural.

(He has drawn of Jean a portrait of caricature)

2) ?Il a dessiné de Jean le portrait caricatural.

(He has drawn of Jean the portrait of caricature)

(1)と(2)は形の上では同じに見える。前置詞句 de Jean は後続の名詞句の中に un/le portrait caricatural de Jean という形でくっついていたものが前に出てきたものとしてとらえられている。(2)は(1)にくらべてやや妙な感じの文であるとされる。後ろの名詞句の中にあつた前置詞句が前に出る場合には、名詞句は前方照応的(前の文脈を指すもの)であってはならず、むしろ談話内に新しい要素を導入するものであるほうがよいという。発表者はこの説明の妥当性を他の例も挙げながら主張した。

③ A [DANS] + 場所の名詞における、前置詞 A とDANSの交代について

--- 松田 孝江 (大妻女子大学)

Aはおおよそ英語の at, to に、DANS は in, into にあたる。発表は、XAY と X DANS Y との違いを、discernement (見分け、判別) と division (分割、区分) という2つの概念を用いて説明しようとする。A は discernement、DANS は division に属する。前者はAYの「枠内でとらえられたXの姿に焦点があてられ」、後者はXDANSの「フィルターを通してYの一つの側面が浮き彫りにされる」という。この発表にはなぜか文学を専門にしている知り合いも来ていた。自分の専門の方の発表よりもこちらのほうが分かり易くておもしろいからだそうだ。

④ 《Sur l'origine de la langue française: le Prince ou le Poète?》

--- Bernard Cerguiglini (Institut National de la Langue Française)

講演者は、日本で言うと国立国語研究所にあたるような機関の所長であり、専門は中世フランス語だが、チョムスキーの著作を仏訳したこともあるという人である。講演は、現代の標準フランス語の起源であるとされる francien が、実は存在しなかったのではないかと主張するものだった。francien は、諸王がいたパリ付近で1200年頃に話されていた言葉とされているが、その書かれたものとしての記録は存在せず、19世紀頃に思想、政治的な思惑によりその架空の存在が語られたのではないかという。1200年頃のパリ周辺では実際にはピカルディー方言が使われていたのではないかと講演者はみている。

これらの発表を聞いた後、事務的な報告が行われる総会に出て、今回の私の出張は終わった。秋晴れに恵まれ幸運だった。